Ether PCM-T

取扱説明書

PN J613-M0055-00 Rev.A 961005

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ず守ってください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。

カバーを外さないでください。

本製品のカバーを外したり、本製品を分解したりしないでください。感電や故障の原因となります。

稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクタの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

動作温度

本製品は、指定された動作周囲温度の範囲でご使用下さい。動作可能な周囲温度範囲は、マニュアルに記載されています。

異物を入れないでください。

換気口、拡張スロットなどから金属、液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所 (結露するような場所)
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所 (静電気障害の原因にもなります)
- 腐食性ガスの発生する場所

日常のお手入れ

本製品の汚れは、やわらかい乾いた布でふいてください。ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。製品の変形、変色の原因になります。

目次

1. 概要
   - 概要 5
   - 要求されるハードウエアリソース 5
   - 各部の名称と働き 6

2. イーサネットアダプタの取り付け
   - イーサネットアダプタの取り外し 8

3. ネットワークへの接続 9

4. Windows95用ドライバのインストール
   - Windows95のインストール 11
   - PCカードを使用するための準備 11
   - 本アダプタのドライバのインストール 14
   - ご注意（活線挿抜） 18

5. Windows95のトラブルシューティング
   - ドライバが正しくインストールされている状態 19
   - 本アダプタのドライバを再インストールしてみる 20
   - 「PCMCIAソケット」のドライバを再インストールしてみる 22
   - 他の拡張アダプタと設定が重複していませんか？ 26
   - ネットワークを確認しましょう 26

6. WindowsNT
   - WindowsNTのインストール 28
   - NDISドライバのインストール 28

7. ハードウエア診断プログラム (DIAGAT･DIAG98)
   - 手順 30
   - エラーメッセージ 32

A. 付録
   - 10BASE-T コネクタ 34
   - corega Ether PCM-T 仕様 34

B. ユーザーサポート
   - 保証 36
   - 調査依頼書のご記入のお願い 37
   - ハードウエアとソフトウエア 37
   - お問い合わせ内容について 37
   - ネットワーク構成について 37

調査依頼書(corega Ether 1/2) 38
調査依頼書(corega Ether 2/2) 39

おことわり 40

製品保証規定
製品保証書

1. 概要

corega Ether PCM-T は、PCMCIA 2.1 または JEIDA V4.2 の PC カード用スロット (ソケット) を持つノートブック型パソコンをイーサネットベースバンド LAN システムに接続するために開発された製品です。本製品は、IBM-PC/XT/AT アーキテクチャのパソコン (DOS/V)、または PC-98シリーズ [†1] でご使用になれます。

1.1　要求されるハードウエアリソース

本アダプタを使用するためには、パソコンに対して下記のことが要求されます。

I/O アドレス

下記のどれかを先頭とした連続した 32 バイトの I/O 空間が空いていること (16 進表記)。

200、220、240、260、280、2A0、2C0、2E0、
300、320、340、360、380、3A0、3C0、3E0

インタラプト (IRQ)

下記のうちいずれかひとつが空いていること(10進表記)。

3、4、5、7、9、10、11、15

†1 PCMCIA 2.1 または JEIDA V4.2 仕様の PC カード用スロット (ソケット) を持つ PC-98 シリーズでのみご使用いただけます。以下のPC-98シリーズは、PCmc2A2.0/JEIDA4.1仕様のためご使用になれません。

PC-9801NX/C、NS/A、NL/R、
PC-9821 Ne

1.2　各部の名称と働き

図1.2.1をもとに各部の名称を説明します。

(1) PCM-T カード本体
イーサネットアダプタの本体です。この本体は、ノート型パソコンの PC カード用スロットに実装します。

(2) メディアモジュール
PCM-T カード本体を 10BASE-T に接続するためのトランシーバーモジュールです。

(3) LINK ランプ (緑)
メディアモジュールがハブと正しく接続されているとき、点灯します(但し、ハブなどの電源がオンであること)。

(4) ACTIVITY ランプ (黄)
幹線上のパケットを検出した時に点灯します。

(5) 10BASE-T コネクタ
10BASE-T ケーブル (ツイストペアケーブル) を接続するコネクタです。

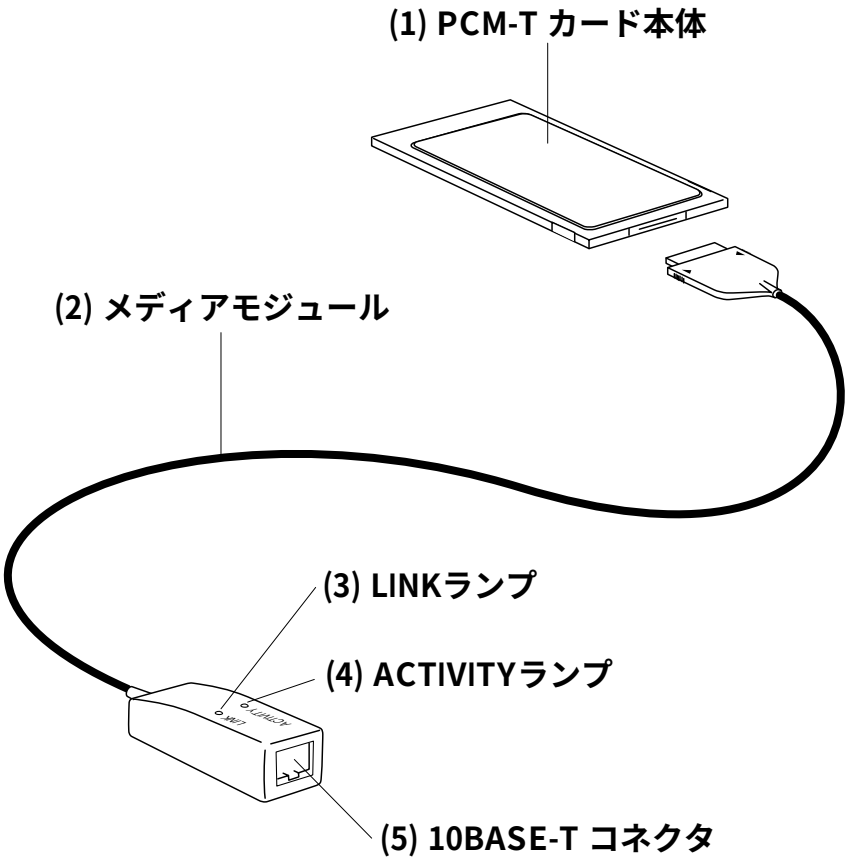


図1.2.1　corega Ether PCM-T の各部の名称

2. イーサネットアダプタの取り付け

イーサネットアダプタ (PC カード) のパソコンへの取り付け方を説明します。

(1) パソコンの電源をオフにしてください†1。

(2) corega Ether PCM-T が印刷された面を上にして、本イーサネットアダプタをパソコンの PC カード用スロットに挿入してください。PC カード取り付けの詳細は、ご使用になるパソコンのマニュアルをご覧ください。

(3) 本イーサネットアダプタをカチンとショックがあるまで押し込んでください。

(4) 図 3.1.1 のようにメディアモジュールのコネクタを本イーサネットアダプタのメディアコネクタに接続してください。

(5) 第３章に進み、10BASE-T ケーブルを接続してください。

イーサネットアダプタの取り外し

本イーサネットアダプタのパソコンからの取り外しは、必ずパソコンの取り外しボタンを押して行ってください。メディアモジュールのケーブルを引っ張って外さないでください。本イーサネットアダプタの故障の原因となります。

メディアモジュールをイーサネットカード本体から取り外す場合は、メディアモジュールのイーサネットアダプタ側コネクタのギザギザの部分を親指と人差し指でつまみながら、引っ張ってください。

---

†1 PCMCIA2.0/ JEIDA V4.1 以上のパソコンであれば、本アダプタのパソコンへの取り付け、取り外しの作業は、パソコンの電源をいれたまま行うことができます。パソコンに電源が投入された状態で 本アダプタの抜き差しを行っても、パソコンや本アダプタが破損することはありません。しかしながら、パソコンに電源を入れたままの状態での本アダプタの抜き差しについては、ご使用になるパソコンのマニュアルを参照して行ってください。

3. ネットワークへの接続

(1)　ストレートの 10BASE-Tケーブル (ツイストペアケーブル) を使用し、本イーサネットアダプタをハブに接続する場合を例にして説明します (図3.1.1 参照)。

(2)　10BASE-Tケーブルのモジュラープラグをメディアモジュールの 10BASE -Tコネクタに、カチッと音がするまで差し込んで下さい (両端のプラグのどちらを差し込んでもよい)。

(3)　10BASE-Tケーブルを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

(4)　10BASE-Tケーブルのもう一方の端のプラグをハブのコネクタに差し込んで下さい。手順は、上記(2)(3)と同様です。

※　10BASE-Tプラグは、爪を親指で押えながら手前に引くと抜けます。

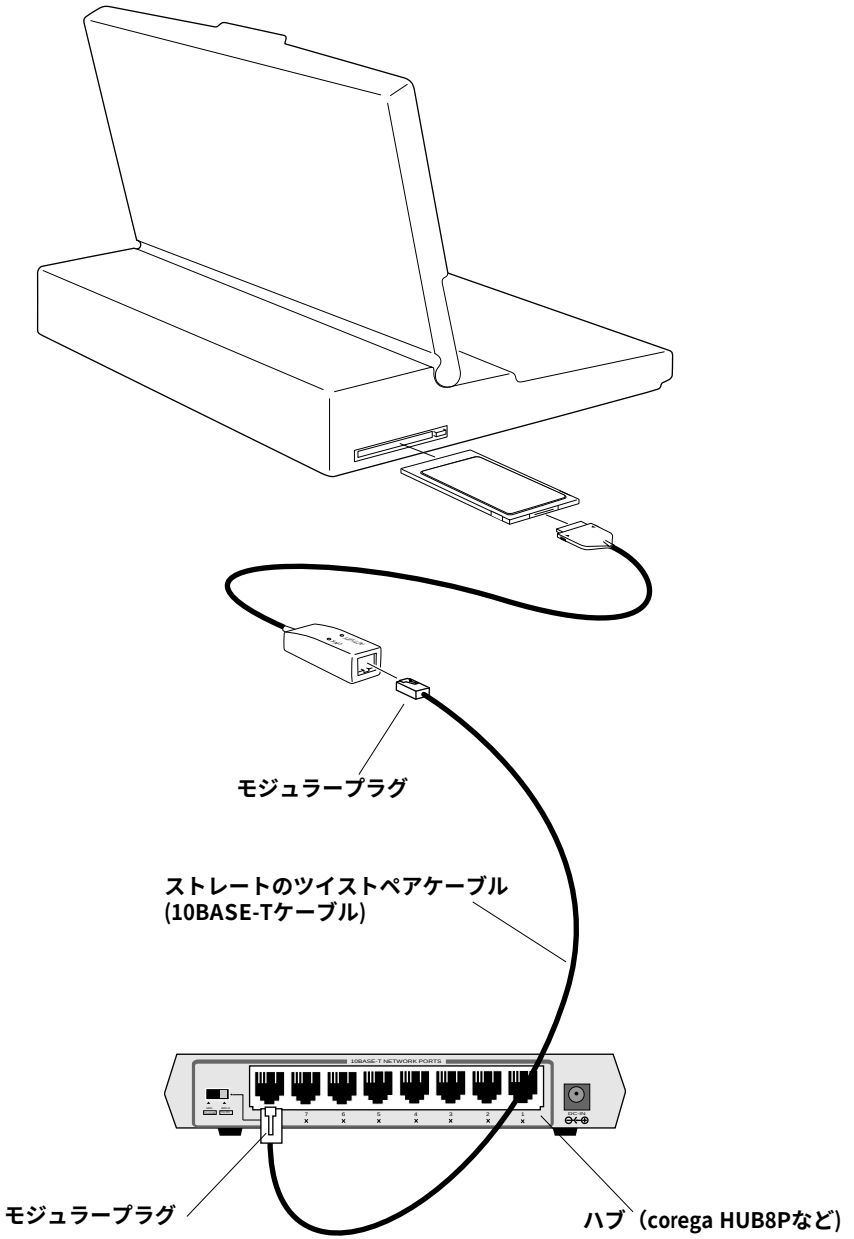


図3.1.1　10BASE-Tケーブルの接続

4. Windows95用ドライバのインストール

Windows95用ドライバのインストール手順を説明します。ここに挙げた手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が若干異なることがあります。

Windows95のインストール

(1) まず、Windows95をインストールします（プレインストール版やすでにインストールが終了している場合は、手順（2）から実行してください）。インストールが終了したら、Windows95を終了させ、パソコンの電源をオフにしてください。

PCカードを使用するための準備

本アダプタのドライバをインストールする前に、以下の手順を実行してください。この時点では、まだ本アダプタはパソコンに取り付けないでください。これにより、PCカードを自動認識するための機能が有効化されます†1。

(2) パソコンの電源をオンにし、Windows95を起動してください。

(3) 「スタート」をクリックし、「設定(S)」から「コントロールパネル(C)」を選択します。

図1

†1 この手順は、PCカードを初めて使用する前に１回だけ実行すればよく、本アダプタを使用するたびに実行する必要はありません。

→†2 以前にこの手順を実行したことがあればこのパネルは表示されず、**「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」**が表示されます。また、**プレインストール版Windows95**をご使用の場合も同様に、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」が表示されることがあります。「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」パネルを閉じ、手順（8）に進んでください。

(4)　コントロールパネルの「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックします。

図2

(5)　「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が現われます←†2。「PCカード(PCMCIA)ウィザード」は、２つの質問を行います。通常は、２つの質問のそれぞれに対して「いいえ（N）」を選択し、「次へ>」をクリックしてください。

図3、図4

(6)　「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が完了すると、次のダイアログが表示されます。「完了」をクリックしてください†1。

図5

(7)　次のダイアログが表示されます。「はい（Y）」をクリックしてください。Windows95が終了したら、パソコンの電源を切ってください。

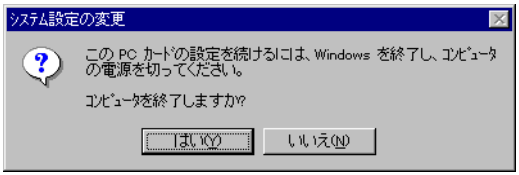


図6

†1 Windows 3.1の環境からWindows95にアップ・グレードした場合は、以上の作業によってconfig.sysに記述された**既存の16ビットのカードサービス、ソケットサービス**はコメントアウトされます。

本アダプタのドライバのインストール

(8) パソコンの電源をオフにした状態で、本アダプタをPCカード用スロットに取り付けてください。

(9) パソコンに電源を投入してください。Windows95は本アダプタを自動的に検出し、**「新しいハードウエア（corega,K.K. -Ethernet LAN Card）」**が表示されます。「ハードウエアの製造元が提供するドライバ（M）」を選択し、「OK」をクリックしてください。

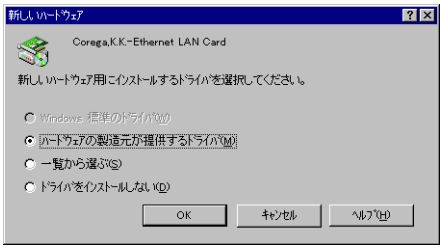


図7

(10) 「フロッピーディスクからインストール」が表示されます。フロッピードライブに**本アダプタのドライバディスク**を入れ、AT互換機の場合は**「A:\」**、PC-98の場合は**「B:\」**と入力して、「OK」をクリックしてください。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

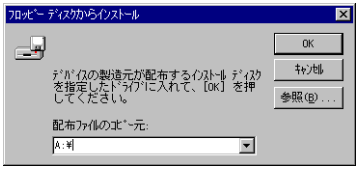


図8

「デバイスの選択」が表示された場合は「*corega Ether PCM-T*」を選択し、「OK」をクリックしてください。お使いのPCによっては、この「デバイスの選択」ダイアログが表示されないこともありますが、異常ではありませんのでそのまま手順(11)に進んで下さい。

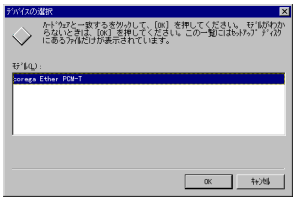


図9

(11) ファイルのコピーが開始され、途中で図10a又は図10bの画面が表示され、Windows95の供給メディア（CD-ROM又はフロッピーディスク）が要求されます。

図10a

図10b

（注） 要求されるフロッピーディスクの番号は異なる場合があります。

1 Windows95がプレインストールされたPCをご使用の場合は、「ファイルのコピー元（C）：」で「**drv:\windows\options\cabs**」[→†1]を入力してください。通常、*drv*:はDOS/V機ではC:、PC-98ではA:となります。

2 CD-ROMでWindows95をインストールしたPCの場合は、「ファイルのコピー元（C）：」で「**drv:\WIN95**」を入力してください。画面では、CD-ROMドライブをD:と仮定します。通常、*drv*:はPC-98ではQ:となります。

3 フロッピーディスクでWindows95をインストールしたPCの場合は、指示された番号のディスクをフロッピードライブに入れ、「ファイルのコピー元（C）：」で「**drv:**」を入力してください。通常、*drv*:はDOS/V機ではA:、PC-98ではB:となります。

図11

(12) 「システム設定の変更」が表示されます。「今すぐ再起動しますか？」という問いに対して、「はい（Y）」をクリックしてください。

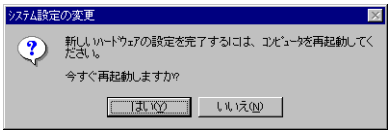


図12

(13)　以上で本アダプタ用のドライバのインストールは終了です。本アダプタが使用するI/Oアドレス、インタラプトなどのリソースは、Windows95によって自動的に設定されます（「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」→「corega Ether PCM-T」→「プロパティ」→「リソース」により現在の設定を確認することができます）。

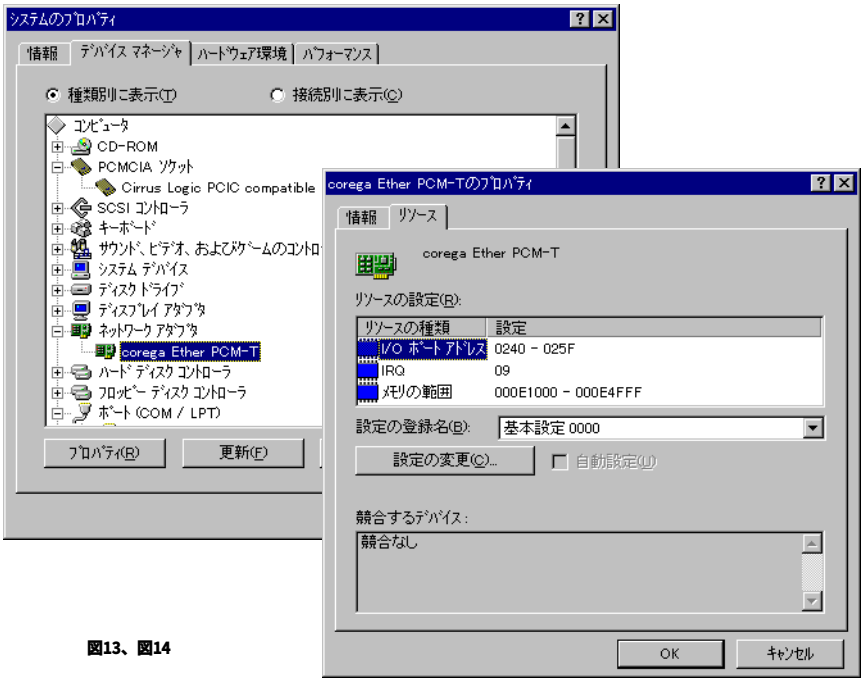


図13、図14

←†1　**指定された番号のフロッピーディスク**を入れるように要求されますが、メッセージを確認し「OK」をクリックしてください。**プレインストール版Windows95**では、それらのフロッピーディスクの内容がハードディスクにコピーされて出荷されています。

また、パソコン機種によっては必要なファイルが**「\windows\options\cabs」に存在しない**ことがあります。その場合は、パソコンのマニュアルをご覧になるか、検索コマンドにより拡張子「cab」のファイルが存在するディレクトリを探し、そのディレクトリを指定してください。

(14) お客様のネットワーク環境に応じて、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行ってください。これらの設定は、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動することにより、行うことができます。

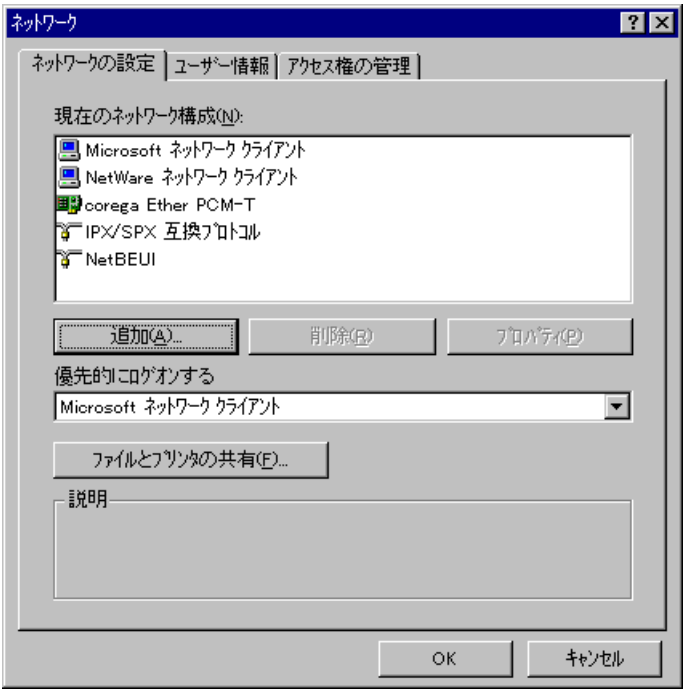


図15

ご注意（活線挿抜）

Windows95はPCMCIAカードの活線挿抜をサポートしていますが、カードの動作中（通信中）に本アダプタを抜いた場合、実行中のアプリケーションの動作に支障をきたすことがあります。安全のために必ず、「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」アイコンを起動し、「ソケットの状態」で「corega Ether PCM-T」を終了させてから、本アダプタを抜いてください。

図16、図17

5. Windows95の トラブルシューティング

ドライバが正しくインストールされている状態

「1. Windows95対応ドライバのインストール」の手順の全てを実行し、ドライバが正しくインストールされた場合、図18のようにデバイスマネージャの「PCMCIAソケット」†1の下に適切なドライバが表示され、「ネットワークアダプタ」の下に「corega Ether PCM-T」が表示されます。また、図17のように「ソケットの状態」に「corega Ether PCM-Tソケット1」が表示されます。

図18　正常にインストールされた状態

「PCMCIAソケット」の下に表示されるドライバや、「corega Ether PCM-T」のアイコンに赤や黄色の「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、本アダプタのドライバが正常に動作していないこと（正しくインストールされていないこと）を示しています。

†1 ここにおける例では、PCMCIAソケットのドライバは「PCICまたは互換PCMCIAコントローラ」となっています。これは、お客様の環境と異なっていることがあります。

本アダプタのドライバを再インストールしてみる

「PCMCIAソケット」は正しくインストールされているが、本アダプタのドライバが正しくインストールされていない場合は、以下の手順を実行してみてください。以下の手順は、本アダプタをPCカード用スロットに取り付けたまま行ってください。

(1)　本アダプタのドライバをインストールしたはずなのに「ネットワークアダプタ」の項目が表示されない場合は、図19のように、「その他のデバイス」の下に「Corega,K.K.-Ether LAN Card」が表示されていることがあります†1。

「その他のデバイス」の下の「Corega,K.K.-Ether LAN Card」を選択し、「削除（E）」ボタンをクリックしてください。「デバイス削除の確認」では「全ての設定から削除（A）」を選択し、「OK」をクリックしてください。手順（3）に進んでください。

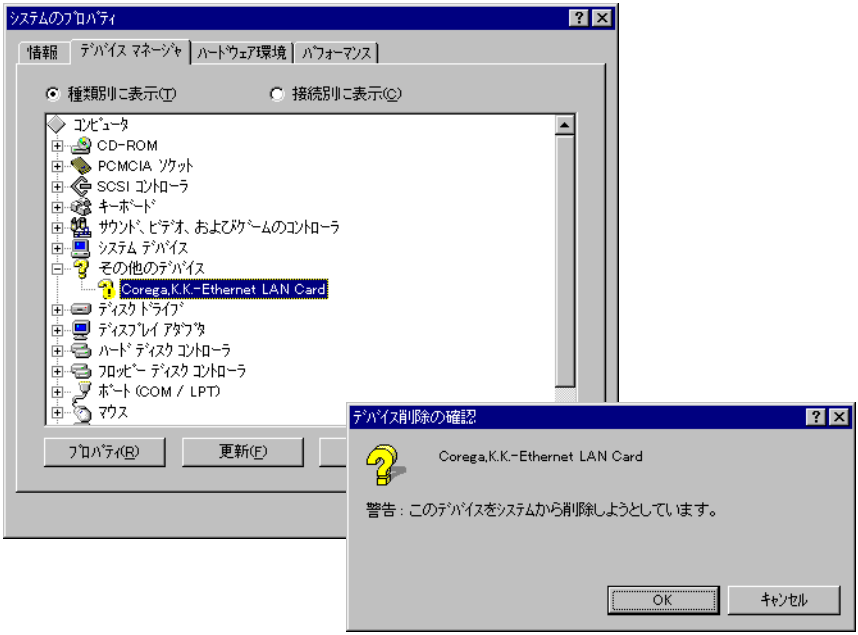


図19、図20　その他のデバイスとしてインストールされてしまった状態

†1 以下のような操作を行うとこのような状況に陥ります。
ドライバインストールの作業中に行われるnetapi.dllなどのWindows95関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
以前本アダプタのドライバのインストールと削除を行ったことがあり、「4. Windows95用ドライバのインストール」の手順（9）の「新しいハードウエア」ダイアログで「ドライバをインストールしない（D）」を選択した。

(2)　「ネットワークアダプタ」の下の「corega Ether PCM-T」のアイコンに「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、「corega Ether PCM-T」を選択し、「削除（E）」ボタンをクリックして、「デバイス削除の確認」ダイアログ上の「OK」をクリックしてください。

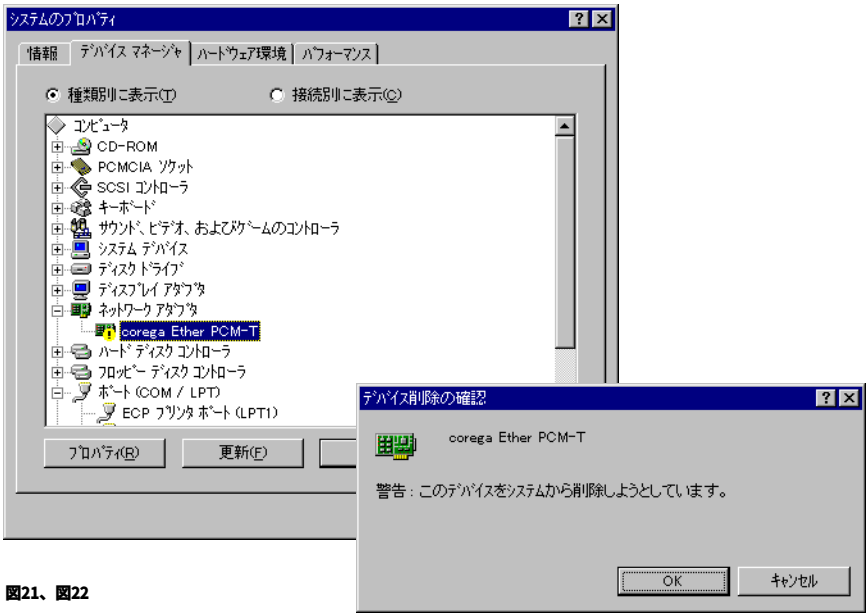


図21、図22

(3)　Windows95を終了させてください。

(4)　パソコンの電源をオフにし、数秒待ってから、再び電源をオンにしてください。

(5)　Windows95が起動し、「新しいハードウエア(corega Ether PCM-T)ダイアログが表示されます。「4. Windows95用ドライバのインストール」の手順（9）から実行してください。

「PCMCIAソケット」のドライバを再インストールしてみる

本アダプタのドライバは、「PCMCIAソケット」と協調して動作します。そのため、「PCMCIAソケット」が正しくインストールされていない状況では、本アダプタのドライバは動作することができません。

「PCMCIAソケット」の下に表示されるドライバに「?」、「!」、「×」が付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

(1)　次の経路をたどり、デバイスマネージャを表示させてください。

「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」

(2)　「PCMCIAソケット」の下に表示されるドライバを選択し、「削除（E）」をクリックしてください。次のダイアログが表示されますので、「全ての設定から削除（A）」を選択し、「OK」をクリックしてください。

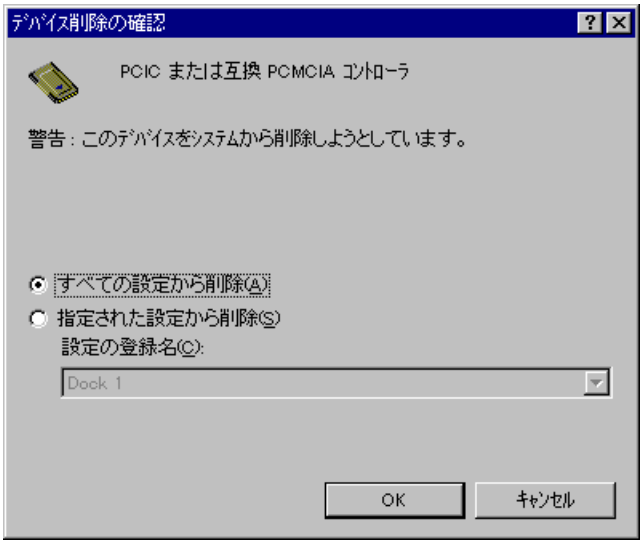


図23

(3)　「デバイスマネージャ」から「PCMCIAソケット」のアイコンが消えます。

図24

(4)　Windows95を終了させ、パソコンの電源をオフにした後、本アダプタを取り外してください。

(5)　パソコンの電源をオンにしてください。「コントロールパネル」を表示させると、「PCカード(PCMCIA)」アイコンが消えています。

図25

(6)　「コントロールパネル」→「ハードウエア」アイコンをダブルクリックしてください。「ハードウエアウィザード」が起動します。「次へ>」をクリックしてください。「ハードウエアウィザード」の実行には数分の時間がかかります。

図26

(7)　「はい（通常はこちらを選んでください）（Y）」を選択し、「次へ>」をクリックしてください。

図27

(8)　次へをクリックしてください。

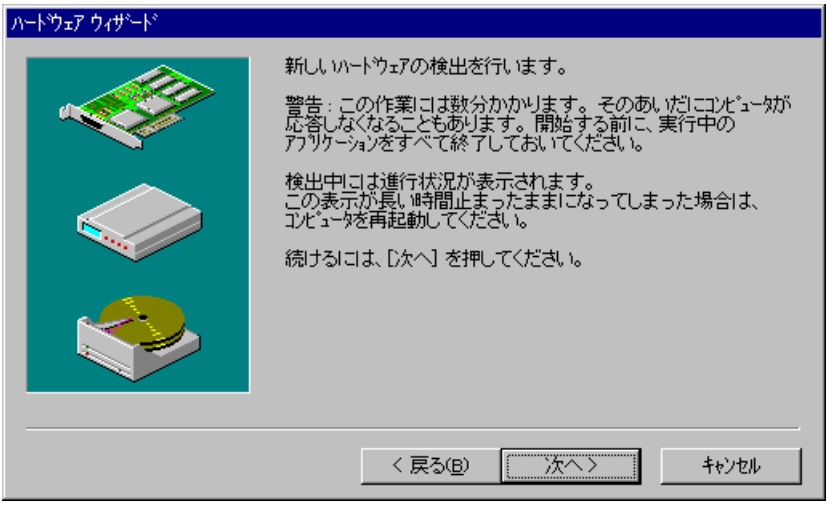


図28

(9)　「完了」をクリックしてください。

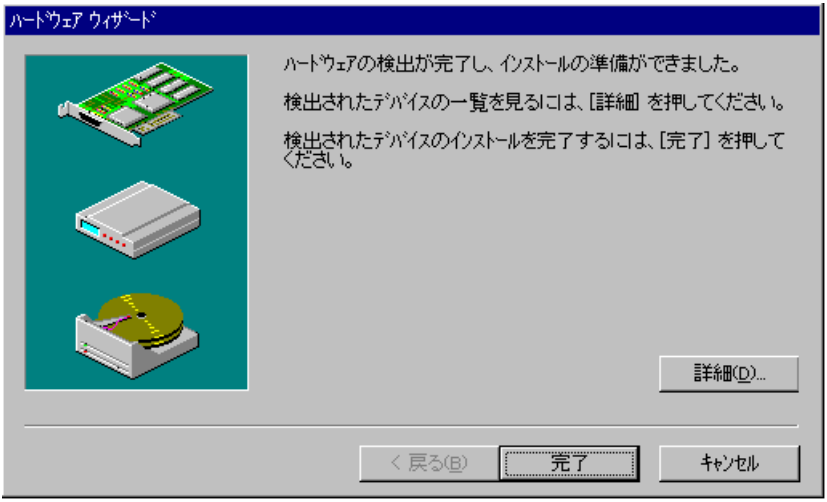


図29

(10)　「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が表示されます。「4. Windows95用ドライバのインストール」の手順（5）から実行してください。

他の拡張アダプタと設定が重複していませんか？

前述の手順にしたがって、PCカード、本アダプタのドライバの再インストールを行ってみたが、それでも各ドライバのアイコンに「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、他の拡張アダプタとの設定重複の可能性があります。ノートパソコン用の拡張ドック（ボックス）などを使用している場合は注意が必要です。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプタを使用している場合は、以下のことを実行し、その拡張アダプタが使用するリソースをWindows95に登録しておかなければなりません。

[1] 拡張アダプタが使用するリソース（インタラプト（IRQ）、I/Oポートアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプタのマニュアルをご覧ください。または、製造メーカーにお問い合わせください。

[2] 次の項目をたどっていき、拡張アダプタが使用するリソースを予約してください。

「コントロールパネル」→「システム」アイコン→「デバイスマネージャ」パネル→「コンピュータ」アイコンをダブルクリック→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」

ネットワークを確認しましょう

PCカード、本アダプタのドライバが正しくインストールされているにも関わらず、通信できない場合は、次のような原因が考えられます。

[1] **使用するプロトコル、クライアントなどの設定が適切でありません。**「コントロールパネル」の「ネットワーク」で正しい設定を施してください。

詳細は、Windows95のマニュアルなどをご覧ください。これらの情報は、例えば「Windows95リソースキットVol.1（著者Microsoft Corporation、監修マイクロソフト株式会社、発行所株式会社アスキー）」の第３部「ネットワーク」で詳しく説明されています。

[2] **ご使用の10BASE-Tケーブルがしっかり接続されていないか、断線しているか、適切なものを使用していません。**ケーブル類の接続をし直す、ケーブル類を交換してみる、ハブのポートを入れ替えてみるなどを行ってみてください。

ハブと本アダプタが物理的に正しく接続されていれば、ハブと本アダプタのリンクランプ（LNK）が両方とも点灯します。また、ネットワークのパケットを受信したとき、本アダプタのACTIVITYランプが点滅します。

リンクランプを持たないハブもあります。また、リンクランプが別の名前で呼ばれていることがあります。例えば、当社製ハブ「corega HUB8P/4」ではリンクの表示は「LINK OK」となっています。

6. WindowsNT

本アダプタ用のMicrosort Windows NT対応 NDISドライバは、MicrosoftのNDIS仕様Version 3.0を満たし、Windows NT Version 3.51以上で使用できます。†1

ただし、Windows NTの対応機種互換リストに挙げられていないパソコン機種で本ドライバをご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのパソコン機種で本ドライバをご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象になりません。

WindowsNTのインストール

WindowsNTがインストールされていない場合は、本アダプタをパソコンに取り付け、WindowsNT Version 3.5をインストールしてください。WindowsNTのインストールの中で、本アダプタ用ドライバのインストールを行う場合は、表示される指示に従ってください。本アダプタのドライバに関する手順は、次の項目「Windows NT用NDISドライバのインストール」に習ってください。

NDISドライバのインストール

「既にWindowsNTのインストールは終了しているが、アダプタ用ドライバのインストールが行われていない」という場合は、以下の手順を実行してください。

(1) メイングループの「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」をダブルクリックしてください。「ネットワークの設定」ダイアログボックスが現れます。

(2) 「ネットワークアダプタカードの追加(P)...」ボタンをクリックしてください。

(3) ネットワークアダプタカードから「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し「続行」ボタンをクリックしてください。

(4) 「フロッピーディスクの挿入」ダイアログボックスが現れます。本アダプタのドライバディスクをフロッピードライブに入れ、ダイアログの要求に対して、下記のパスを指定してください。

---

†1 PCMCIAコントローラーのベースアドレスが3E0でない場合、PCMCIA.SYSが動作しないため当ドライバーは動作しません。また、活線挿抜はサポートしていないのでカードの抜き差しは電源をおとした後に行ってください。

DOS/V機

```
A:\windows.nt
```

PC-98

```
B:\windows.nt
```

(5) フロッピーディスクからドライバをインストールするためのプログラムがロードされ、「OEM オプションの選択」ダイアログが表示されます。「corega Ether PCM-T ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

(6) PC-98の場合は、「corega Ether PCM-T Card」ダイアログボックスが表示されます。「IRQ」、「IOBase Address」、「MappedMemory Base」を他の拡張アダプタなどと重複しないように設定してください。

AT互換機の場合は、「corega Ether PCM-T Card」ダイアログボックスが表示されます。各オプションを他の拡張アダプタなどと重複しないように設定してください。

(7) ドライバ、ヘルプファイルなどがインストール先にコピーされ、コピーが終了すると、「ネットワークの設定」ダイアログボックスの「組み込まれているアダプタカード(A):」に、「corega Ether PCM-T ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」が表示されます。
「組み込まれているネットワークソフトウエア」の項には「corega Ether PCM-Tアダプタ」が表示されます。

(8) 「組み込まれているアダプタカード(A):」から「corega Ether PCM-T ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、「バインド(B)...」ボタンをクリックしてください。

(9) ダイアログ「ネットワークのバインド」の「OK」ボタンをクリックしてください。WindowsNTで使用するプロトコルスタックが本アダプタにバインドされます(結びけられます)。

(10) 「ネットワークの設定」ダイアログボックスの「終了」ボタンをクリックしてください。

(11) 「ネットワークの設定の変更」のダイアログボックスが表示されます。この段階ではドライバを組み込んだだけで有効にはなっていませんので、再起動をしてください。

7. ハードウエア診断プログラム（DIAGAT・DIAG98）

DIAGAT.EXE（AT互換機用）・DIAG98.EXE (PC-98用)[†1]は、本アダプタのハードウエア診断プログラムです。本アダプタが正常に動作するかどうかを確認するときや、本アダプタを使用していて異常が生じた場合に、何が原因なのかを調べるときに使用してください。DIAGAT.EXE・DIAG98.EXEは、ハードウエアのテストを行い、エラーを検出すると、メッセージを表示して終了します。

手順

(1) 本アダプタをネットワークに接続してください。本アダプタがネットワークに接続されていない場合、DIAGAT.EXE・DIAG98.EXEはエラーを返します。

(2) **Windows95をご使用の場合は**、パソコンに電源を投入し、画面に「Starting Windows95...」 または 「Windows95を起動しています…」というメッセージが表示されたら、キーボードの「F8」キーを押します。「Command prompt only」または「コマンドプロンプトのみ」を選択しパソコンを起動してください。

WindowsNTをご使用の場合は、パソコンを再起動してMS-DOSを実行してください（パソコンにMS-DOSがインストールされていない場合は、MS-DOSが実行できる他のパソコンでMS-DOSの起動ディスクを作成し、その起動ディスクを使用してパソコンを再起動してください）。

(3) DOSのプロンプトが表示されたら、DIAGAT・DIAG98コマンドを実行します。

```
DIAGAT -I:# -B:# -M:# -P:#
```
(AT互換機)

```
DIAG98 -I:# -B:# -M:# -P:#
```
(PC-98)

†1 DIAGAT.EXE・DIAG98.EXEはカードサービス・ソケットサービスを必要としません。これらは自身でPCMCIAコントローラを初期化するためにカードサービス・ソケットサービスまたはイネーブラを必要としませんが、EMM386のオプションが必要となります。（次ページを参照してください。）

コマンドオプション

インタラプト（IRQ）

「 **-I:** 」 に続けてインタラプト（IRQ）の値を指定します。下記の値を指定できます。（太字はデフォルト値です。以下同様）

3、4、**5**、7、9、10、11、15

I/O アドレス

「 -B: 」 に続けてI/Oアドレスの値を指定します。下記のアドレスの中から指定できます。

0200、0220、0240、0260、0280、02A0、02C0、02E0、
0300、0320、0340、0360、0380、03A0、03C0、03E0

PCMCIAカードとコンピュータの共有メモリのベースアドレス

「 -M: 」 に続けて指定したアドレスから16KBのメモリ空間を使用します。デフォルト値は**D400H**です。

このオプションで指定したメモリ空間をEMSドライバなどでEMS page windowもしくはUMBとして使用することはできません。EMM386を使用する場合はEMMのX（AT互換機）またはE（PC-98）オプションを使って予め空けて下さい。デフォルトのD400Hを含まない範囲で設定している場合（例：C000H～CFFFH）は- Mオプションでこの範囲内の値（例：C400H）を指定してください。

ホストPCMCIAコントローラアドレス

「 -P: 」 に続けてホストPCMCIAアドレスの値を指定します。

PCMCIA Release2.1 規格では PCMCIAコントローラのアドレスは I/O 3E0H、3E1H と規定されていますがこの値はコンピュータによって異なることがあります。ご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。デフォルト値は **3E0H** です。

(4)　下記に、正常な試験結果の例を示します（AT互換機の場合）。

```
corega Ether PCM-T Diagnostic Version 1.0 pl 0 [AT/IBM-PC]
Copyright (c) 1996 by Allied Telesis, K.K. All rights
reserved
    Mapped Address: D400
         Int Lebel: 5
           IO Base: 300
          IO Check: OK
     Ether Address: 00 00 f4 40 00 10
  Buffer RAM Check: OK          (16)
   Interrupt Check: OK
  Loopback Check 1: OK
  Loopback Check 2: OK
  Loopback Check 3: OK

  All Check Terminated
```

(5)　エラーメッセージ

Card Services are installed on this machine.
Please unload Card and Socket Services.

カードサービス・ソケットサービスが実行中です。
それらを取り除いてから再度実行してください。

This card is not PCM-T.

corega Ether PCM-Tではないカードを挿入しています。
本診断プログラムはcorega Ether PCM-T専用です。

IO Check: NG

I/Oチェックでエラーが発生しました。
I/Oの値（**-B**オプション）を変更して再度DIAGAT・DIAG98を実行してください。

Interrupt Check: no interrupt

割り込みが発生しませんでした。
インタラプトの値（**-I** オプション）が他のデバイスによって既に使用されている可能性があります。値を他のものに変更して再度DIAGAT・DIAG98を実行してください。

Interrupt Check: Tx timeout

データの送信時タイムアウトが発生しました。

Interrupt Check: Tx error interrupt

送信が行われても割り込みが発生しませんでした。
ネットワークに接続するためのケーブルが切断していないか、間違ったケーブルを使用していないか調べてください。

Card is not ready.

カードの準備が出来ていません。

I/O mapping error.

I/O マッピングエラーが発生しました。
I/Oの値（-Bオプション）を変更して再度DIAGAT・DIAG98を実行してください。

Buffer RAM Check: NG

バッファＲＡＭに異常があります。
コンピュータを再起動するか、他に拡張アダプタを使用している場合はそれらをすべて取り外してもう一度DIAGAT・DIAG98を実行してください。

再度DIAGAT・DIAG98を実行しても同じエラーメッセージが返された場合はカードの損傷が考えられます。coregaサポートセンターまでご連絡ください。

以下の３つのエラーメッセージはLoopback Checkに関するものです。これらのエラーメッセージが返された場合は、トラフィックが多いネットワークに本製品を接続して試験を行った可能性があります。静かなネットワークに接続して再度DIAGAT・DIAG98を実行してください。（「#」マークは1、2 または 3 を示します。）

Loopback Check #: CRC NG

CRC エラーが発生しました。
ネットワーク幹線に問題がある可能性があります。

Loopback Check #: Tx timeout

データの送信時タイムアウトが発生しました。

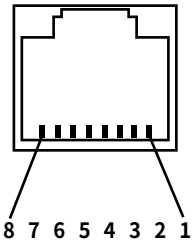
Loopback Check #: Tx error

送信が行われても割り込みが発生しませんでした。

A. 付録

A.1　10BASE-T コネクタ

下記に、10BASE-T コネクタの信号線リストを示します。コネクタは、RJ-45 型と呼ばれるモジュラージャックを使用しています。



(1) TX+　　送信データ(+)
(2) TX-　　送信データ(-)
(3) RX+　　受信データ(-)
(4) ---　　未使用
(5) ---　　未使用
(6) RX-　　受信データ(-)
(7) ---　　未使用
(8) ---　　未使用

A.2　corega Ether PCM-T 仕様

(1) 外形寸法：
PC カード： 86 × 54 × 5 (mm) 但し、突起部は含まない。
PCMCIA release 2.1 Type II またはJEIDA Ver.4.2以上のスロットサイズに適合

(2) 重量：　142g (本体、ケーブル含む)

(3) 消費電流：

動作時：　+5V　150mA max（10BASE-T使用時）

待機時：　+5V　135mA max

(4) ネットワークインターフェース：

10BASE-T (IEEE 802.3) ツイストペアイーサネット

RJ-45 モジュラーコネクタ（メス）

(5) パソコンとのインターフェース：

電気的仕様： PCMCIA release 2.1 / JEIDA Ver. 4.2

I/O アドレス：

下記のアドレスのどれかを先頭とする連続した 32 バイトを占有

200、220、240、260、280、2A0、2C0、2E0、
300、320、340、360、380、3A0、3C0、3E0

IRQ：下記のうちのひとつを占有

3、4、5、7、9、10、11、15

パケットのデータ転送方式：　CPU によるプログラム転送方式

(6) 環境条件

動作温度：　0 ～ 40 ℃

動作湿度：　20 ～90% (但し、結露なきこと)

保管温度：　-20 ～ 65 ℃

保管湿度：　10 ～ 65 % (但し、結露なきこと)

保証

本書に記載されている「製品保証規定」をお読みになり、「ユーザー登録用紙」に必要事項を記入して、弊社「ユーザー登録係」までご返送ください。「ユーザー登録用紙」が返送されていない場合、修理や障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月〜金（祝・祭日を除く）
10:00-12:00、13:00-17:00
Fax: 045-476-6294
年中無休 24 時間

調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウエアとソフトウエア

* PC カードに貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号(S/N)、製品レビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入して下さい。
  (例)

* ご使用になっているソフトウエアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバディスクのラベル上に記入されています。
* 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入下さい。
* 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入下さい。

お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入して下さい。
* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
* 障害などが発生する場合には、本 PC カードと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入下さい。

ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

調査依頼書(corega Ether 1/2)

年　月　日

一般事項

1. 御社名：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒
   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　連絡先(TEL):　(　　)

ハードウエアとソフトウエア

1. ご使用のハードウエア機種（製品名)、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega _____　S/N_____ Rev___

   ドライバディスクのバージョン Ver. _____ pl ____

2. ご使用のパソコン機種と併用している他メーカーの拡張アダプタ (ボード)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：
   拡張アダプタのメーカー名／機種：

3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、WindowsNT など)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：

お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし
□設置中に起こっている障害　□設置後、運用中に起こっている障害

調査依頼書(corega Ether 2/2)

年　月　日

ネットワーク構成

□別紙あり □別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1996 株式会社コレガ

coregaは、株式会社コレガの商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

1996年9月　Ver. 1.0 pl 0　　1st release

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. ユーザー登録用紙の記載に記入漏れなどの不備がある場合、またはユーザー登録用紙が弊社へ送られていない場合
2. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
3. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
4. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（3年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega Ether _____

シリアル番号
（S/N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター

TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294

受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00

月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。